

## 1 学校教育目標

人間としての尊厳を確立し、世界にはばたく人となる国民の育成を目指し、生徒や地域の実態を踏まえ、次のように本校の教育目標を定める。

- 1 健康（体）      2 明るく楽しく（徳）      3 少しずつ賢くなる（知）

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権教育を中心に知・徳・体バランスよく教育し、生徒の自立を目指す学校</li> <li>○生徒・保護者・地域の信頼のもと、厳しく、温かく育む学校</li> <li>○教員が連携し、組織的に生徒一人一人の課題に取り組む学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○向上心を持ち、互いに切磋琢磨しながら、自ら学習に取り組む生徒</li> <li>○自他の生命や人権を尊重する心や規範意識を持ち、礼儀正しく品位のある生徒</li> <li>○健康に留意し、自らの体力向上を目指し、鍛える生徒</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育者としての使命感を持ち、わかる授業を实践できる教師</li> <li>○生徒一人一人の気持ちに寄り添い「厳しく・温かく・わかる言葉」で指導できる教師</li> <li>○主体的かつ適切な判断のもと、組織的に生徒の知・徳・体を鍛えることができる教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状及び成果と課題>

－学校について－

〔成果〕

- 学校生活は授業を大切にすることを基本とし、落ち着いた、真面目な雰囲気の中で教育活動が行われている。
- 地域は協力的で、地域の学校として大切にされている。

〔課題〕

- 真面目な雰囲気が常に保たれる反面、不登校の生徒が多い。

－生徒について－

〔成果〕

- 明るく、さわやかで、気持ちの良い挨拶ができる。
- 集団での生活の仕方、マナーなどを理解し、他者への思いやりの心をもった生徒が多い。
- 学校行事に真剣に取り組むことができる生徒が多い。
- 部活動に熱心に参加しようとする生徒が多い。

〔課題〕

- コロナ禍で様々な活動が制限され、成長の機会を奪われた。
- 指示されれば出来るが、主体的にチャレンジし成果を上げる生徒が少ない。

－教職員について－

〔成果〕

- 生徒の個々の課題について熱心に取り組む教員が多い。
- 自己の校務について責任感を強くもって遂行できる。

〔課題〕

- 経験の浅い教員が多く授業改善をはじめ OJT を更に進める必要がある。
- 課題に気付く力を身につけさせたい。

－保護者・地域について－

〔成果〕

- PTA、開かれた学校作り協議会、おやじの会、おやじの会 OB、近隣9自治会など地域や保護者が協力的で、コロナ禍においても、広い心で本校の学校教育に理解を示してくださり、学校運営を円滑に進めることができた。

〔課題〕

- ごく一部ではあるが、学校の指導に理解いただくのに時間がかかる家庭があるが、協力して子どもを育てる姿勢を貫き、ご理解いただく。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	人権教育の推進	○	○	○	○	○
3	保護者・地域と連携した教育の推進	○	○	○	○	○
4						

## 5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題		達成度 ◎○△●
学力向上 ・生徒の学習意欲を喚起し、主体的に学び、思考力・判断力・表現力を身に付ける指導をする。 ・基礎的・基本的な学力を充実させるための指導の工夫を行う。	・令和4年度区調査通過率全学年全教科65% ・年度末到達度確認テスト正答率65%	・令和3年度区調査通過率 1年国語69.4%数学74.7% 英語72.9% 2年国語85.1%数学76.4% 英語52.8% 3年国語61.7%数学62.9% 英語63.4%	全学年、全教科で通過率65%を目標としたが、2年英語3年3教科で65%を超えることができなかった。 正答率では昨年に引き続き、区内順位は10位程度を維持できた。 学力の二極化が顕著になりつつあるので、下位層をターゲットとした対応が必要である。		○

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続・改善	区学力調到達度確認テストの実施	全学年 全生徒 国語 数学 英語	2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年全生徒を対象に、国語科・数学科・英語科の授業時間及び学びタイムに到達度確認テストを実施し、生徒の自己採点と教員による解説の時間をとる。</li> <li>結果を分析し、補充授業を行う。</li> </ul>	採点をする	令和4年度の目標値正答率65%を全員が超える。	1年(新2年) 正答率 国 59.8% 数 55.5% 英 46.6% 2年(新3年) 正答率 国 76.9% 数 55.5% 英 56.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の学びタイムを活用し、抜き出し補充授業を実施する。</li> <li>領域ごとの正答率を確認し、授業内で補習する。</li> </ul>	○
2 継続・改善	朝の「学びタイム」(必要に応じて個別取出指導)等補充指導	全生徒 国語 数学 英語 社会 理科 ※取り出し教室は、単元テストで学力定着の悪い生徒の生徒	定期考査前の放課後 毎朝始業前30分(教科は学年で決める)	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の「学びタイム」[指導体制]各学級担任と学年副担任(10名)</li> <li>[取組内容] 毎朝、学習内容の復習・確認を行う。漢字の読み、書き・計算・英単語を中心に基礎学力の定着</li> <li>自学自習の力の養成</li> <li>[使用教材]漢字・計算・英単語のプリント</li> <li>・補充教室</li> <li>[取組内容] 単元テスト等で基礎の定着が悪い生徒を取り出して授業を実施</li> </ul>	定期考査実施	定期考査で全教科40%以上の正答率を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びタイムは有効に機能している。</li> <li>・落ち着いて自学自習する態度を身につけさせることができた。</li> <li>・Qubena を活用する絶好の時間となった。</li> <li>・個別の抜き出し授業を実施することができた。</li> <li>・各学習コンテストの取組を実施し、基礎学力の定着を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一日の始まりを学びタイムとすることで、学習に取り組む気持ち、姿勢が整えられ大変有意義な時間となっている。</li> <li>・朝の学びタイムは有効活用することができたが、時間の不足があり、全学年で定期考査前に補充教室を行うこととなった。</li> </ul>	◎

3 新規・継続	授業改善	全教員 全生徒 全教科	毎時間 年2回	<p>[毎時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律の確立の徹底</li> <li>・切磋琢磨し高め合う集団作り指導</li> </ul> <p>[年2回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職による授業参観と指導</li> <li>・教師相互による授業参観月間</li> <li>・生徒による授業評価</li> </ul> <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携研修による</li> <li>・学力調査の分析</li> <li>・肯定的な声かけの研究</li> </ul>	区学力調査 通過率 生徒による 評価	通過率前年比 UP 主体的に学び わかる授業 85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律は若手教員も含め、全ての教員の授業で徹底して守られている。 (生徒アンケート「授業規律などきまりを守っている」98.5%)</li> <li>・生徒アンケートでは「蒲原中の先生の授業はわかりやすい」と答えた生徒は95.5%をであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員相互の授業観察や生徒による授業評価は教員の励みになっている。</li> <li>・授業規律は徹底されており、本校の学校経営の肝となっているため、死守する。</li> <li>・肯定的な声かけについて研究を進め、褒めて伸ばす技術を身につける必要がある。</li> </ul>	○
4 継続・改善	ICT機器の活用を進め 家庭での学習習慣の確立を図る。	全生徒 全教員 全教科	全授業 学活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AIドリルを朝の学びの時間、家庭で活用する。</li> <li>・ICT機器を活用した授業を毎時80%以上とする。</li> <li>・家庭での活用、休校時の活用を工夫する。</li> <li>・「家庭学習ノート」「生活の記録」を配付し、記入させ毎日回収し、家庭学習の意欲を高める指導を継続する。</li> </ul>	生徒意識調査	学習に意欲的に取り組む生徒80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習にしっかり取り組んでいる」と回答した生徒は88.2%であった。</li> <li>・ICT機器については授業観察においてもほとんどの教科で活用がなされている。</li> <li>・担任教員だけでなく学年教員全員で家庭学習の点検を行っており、家庭学習の意欲喚起につながっていると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員はICT機器を積極的に活用している印象があったが、デジタル教科書の使用が不十分であった。</li> <li>・ICT担当教員の負担が大変大きくなりつつあるので、上手くICT支援員へと仕事分担を図る必要がある。</li> </ul>	△

重点的な取組事項－2

人権教育の推進

A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
人権意識の向上(いじめ防止を最重要課題とする) 思いやりの心を育てる 特別支援教育の視点に立った個別支援教育の推進		<ul style="list-style-type: none"> <li>週間年3回実施人権学習(講話、学級指導、全体で学ぶ時間など)を取り入れ、多面的に実施する)</li> <li>いじめ0、体罰0の達成</li> <li>道徳地区公開講座などで意識を変容させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権学習週間は年3回完全実施し、高度に人権問題について考えることができる生徒が増えている。</li> <li>ハートフルウィーク(生徒が先生を選ぶ面接)を実施し、より深く生徒を理解することができた</li> <li>道徳授業は完全実施した。</li> <li>道徳地区公開講座は年2回で実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題、生徒の人権にかかわることについては迅速に対応できた。</li> <li>いじめの件数も非常に少なく感じる。</li> <li>人権教育を丁寧に行い人権について真剣に考えることができる生徒が大部分である。</li> </ul>	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権意識の向上(いじめ防止)	人権学習週間で、生徒が人権についてよく考えていることがアンケートや感想文から読み取れる。(90%以上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のきまりを守り、規律ある生活をさせることでいじめの芽を摘む。</li> <li>人権学習週間の年3回実施一校長講話、学級指導、全校で学ぶ時間などを取り入れた多面的な学習</li> <li>生徒自らが、いじめをはじめとする人権課題について考える取組の実施(いじめをテーマにした生徒会のパネルディスカッションなど)</li> <li>いじめ防止を含めた学校生活に関するアンケート実施</li> <li>いじめ防止対策員会を生活指導部会の中に設置し週1回確実に実行機能させる。</li> <li>特別支援教育推進委員会で不登校等で心の問題を抱える生徒の問題解決に当たる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>善悪の判断が正しい生徒が多く、正しいことがとおる学校になっている。</li> <li>人権学習週間は年間3週間にわたり実施されるが、教員も生徒も楽しみにしている。</li> <li>高度な人権問題も理解し、正しい人権意識を身につけた生徒が大変多い。(生徒の感想等より)</li> <li>いじめ問題について適宜、いじめ防止対策委員会を開き、いじめ案件はあったものの、重大事態に進展せず収束することができた。</li> <li>この委員会は未然防止にも役立った。</li> <li>生徒アンケートによると「人権の学習によく取り組んでいる」と答えた生徒が89.3%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の教員は生徒の個々の課題を発見した際に大変濃密に生徒とかわり、しっかり解決する態度を学校風土として身につけている。</li> <li>生徒に規範意識が育っている反面、校則を守ることの意義が理解できない保護者が現れている事実があるので、しっかり連携して子どもの精神的発達を促したい。</li> <li>教員の人権意識についても今一度確認し、高めていきたい。</li> </ul>	◎

<p>思いやりの心を育てる (自尊感情とともに自己肯定感を高める)</p>	<p>学校・学年行事、道徳授業、地域行事の後の感想文を読み取り、思いやりの心や自尊感情、自己肯定感が高まったことを確認する。 (80%以上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団生活の仕方の指導を学校生活全般で行い、集団が気持ちよく生活できるようにする。</li> <li>・ 道徳教育推進教師を中心として効果的な道徳授業を進めるとともに、道徳授業地区公開講座年2回実施する。</li> <li>・ 生徒の委員会活動をとおして自尊感情、自己肯定感を高める。 (学校・学年行事での係活動、挨拶運動、環境整備活動など)</li> <li>・ 地域清掃等校内ペンキ塗りなどのボランティア活動や職場体験、地域行事などを通して自己肯定感を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校は集団での生活の仕方を学ぶ場所であることを、職員会・朝打合せ・生活指導部会等様々な場面で確認し、教員全体が切磋琢磨し、正しく伸びる生徒集団をつくるべく努力している。</li> <li>・ 道徳教育推進教師を中心に、各学年の道徳担当が、道徳授業を計画的、効果的に配置し授業を行い結果として、生徒の人権意識、自尊感情、自己肯定感は高まっている。</li> <li>・ ハートフルウイークでは自分が選んだ先生と様々な話題で会話することができ、生徒の自己肯定感につながった。</li> <li>・ 生徒会は校則検討などに進んで取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度コロナの影響があったが、保護者や地域の理解のもと、コロナ前とのように行事を全て実施することができた。その中での生徒の成長は著しいものがあった。</li> <li>・ 生徒の自己肯定感や自尊意識は年々高まっていることを感じるが、「自分には良いところがある」との生徒アンケートでは77.6%が肯定的な回答をしている。</li> </ul>	<p>◎</p>
---	--	---	---	---	----------

<b>重点的な取組事項－3</b>		保護者・地域と連携した教育の推進			
<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>	
地域の大人全体で地域で生活している生徒を育てるという意識を高め、生徒の社会性を育成する。	保護者・地域と連携した行事や教育活のさらなる充実	思った通りの活動はできなかったが、職場体験、開かれた学校づくり協議会とのかかわりをもつことができた。	地域と学校そして保護者が手を取り合って、地域の子どもを育てる風土を醸成したい。	△	
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>

地域の教育力の活用 (学校から地域へ)	地域行事に参加する生徒が感想等で自信や満足感を感じ自分の住んでいる地域に愛着を感じている割合が参加者の90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の歴史・文化・伝統の学習</li> <li>生徒の地域行事への参加、発表</li> <li>地域掲示板や学校だより、発行ホームページによる教育活動の周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域行事は新型コロナウイルス感染症感染防止のため開催されないうものがほとんどであった。</li> <li>2年生で職場体験を行ったが地域の方々から厚遇を受け、生徒は感動した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートでは「地域に愛着を感じている」生徒が66.5%おり、コロナ禍収束後この意識を更に発展させる。</li> </ul>	△
地域の教育力の活用 (保護者、地域から学校へ)	生徒の感想文などにより、保護者や地域の方との協働について感謝の気持ちが表れ、意欲の向上が見られる割合が参加者の90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の奉仕活動など(毎日の「朝の挨拶運動」の実施)</li> <li>進路指導における3年生全員面接の指導協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は新型コロナウイルス感染症感染防止のため実施せず。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々と展開する挨拶運動は再開する。</li> </ul>	△

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 学力向上アクションプランについて

##### 【課題】

区学力調査テストの結果は正答率が1年 国語 73.5% 数学 69.1% 英語 86.8% 2年 国語 76.9% 数学 66.2% 英語 54.2%  
3年 国語 70.3% 数学 51.1% 英語 62.6%

正答率で、全国平均値未満の教科はなかったが、相対的に正答率が低い教科では課題があった。

1年生では英語で書くこと、文字の記述に課題が見られた。

2年生では英語で聞くこと、聞き取りに課題が見られた。

3年生では国語で、情報の扱い、聞くこと、数学で関数、英語で読み取りに課題が見られた。

##### 【対策】

昨年度、今年度と英語科では話すことを中心に研究を進め、授業を行ったが、授業内容について見直し改善する。

各学年、各教科で課題を分析、把握し、3月の授業及び新年度の授業で授業改善・補習を行う。

生徒個人が到達度確認テストでの不正解から自己の課題を把握し、Qubenaシートを活用し補充学習を行う。

また、朝の学びタイムを活用し、未定着である生徒を選出し、取り出し特別授業を行う。放課後の補習授業を行う。

##### <成果>

- 学校生活全ての場面で、集団生活力向上の指導(良好な生活習慣の確立・学校生活きまり遵守・授業規律遵守の徹底・集団の中での思いやりの大切さ)等を指導し、集団生活力を高め、全ての生徒が学校生活において真面目にかつ、思いやりの心もち、互いに学び合い、高め合うべく活動している。

結果として生徒が気持ちよく学校生活を送り、授業規律を守り積極的に授業に参加し学力向上を図ることができている。

○ 集団生活力向上とともに、年間3回の人権学習週間を中心に学習を進めた。特に第2回人権学習習慣においては、生徒がパネルディスカッションを行い、生徒が主体的に心の成長の推進を図り、生命の大切さを理解し、いじめを許さないという意識を向上させることができた。

大きないじめ案件もなく、いじめの件数自体が減少していると感じる。

生徒たちに蒲原中学校は、人権についてしっかり学ぶ学校であるという意識が根付いてきた。

高い人権意識をもつことができる生徒が増えている。

○ 地域関係者やPTA、おやじの会、おやじの会OB、関係9自治会の方々が、コロナ禍で中止や変更が多かった教育活動について、広い心でご理解いただき、学校の教育活動を支えていただいたため、混乱なく学校運営をすることができた。

連携小学校でも、地域の中学校へスムーズに進めるような配慮を、学校生活の様々な場面で行っていただき感謝している。

<来年度に向けた課題>

○ 主体的・対話的で深い学びが区学力調査の結果につながるよう授業改善を図る。

○ 「いじめ」をはじめとする人権学習が定着しており、来年度以降もこれを確実に継続させることが課題である。

<解決の方向性>

○ 自分で考え、学び合い、教え合う授業を取り入れ、更に、学力定着の低い生徒には学びタイム等を活用し、取り出し授業を行う。

○ 毎日の職員朝会、週1回の企画会・生活指導部会・特別支援教育校内委員会、適宜開くいじめ防止対策委員会で協議を効果的に行い、教員の人権意識も併せて磨き上げるようにする。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

保護者及び地域の皆様には、コロナ禍において、各行事の参観制限などご迷惑をおかけしましたが、お陰様で、令和4年度は生徒にかかわる行事は完全実施することができました。

心より感謝申し上げます。

地域関係9自治会、おやじの会、おやじの会OB会の方々には、今年度も蒲原中の応援をしていただきありがとうございました。また新型コロナウイルスが収束しましたら、地域の行事へも本校生徒を温かく迎えてくださるようお願いいたします。

本校は教職員が更に一致団結し、保護者・地域とともに生徒の自立を目指し、生徒達を「厳しく、温かく、わかる言葉で」導き、社会に役立つ世界にはばたく人間を育てる学校でありたいと思います。

これからも皆様方のご指導、ご協力をお願いいたします。